

【舟運】淀川河川事務所の取組

- 淀川河川事務所では、災害時の物資輸送・帰宅困難者輸送のための緊急用船着き場を整備。
- 災害時の利活用だけでなく、平常時においても、地域活性化の観点からの利活用を見込み、社会実験・イベント等を実施し、舟運の活性化を促進。

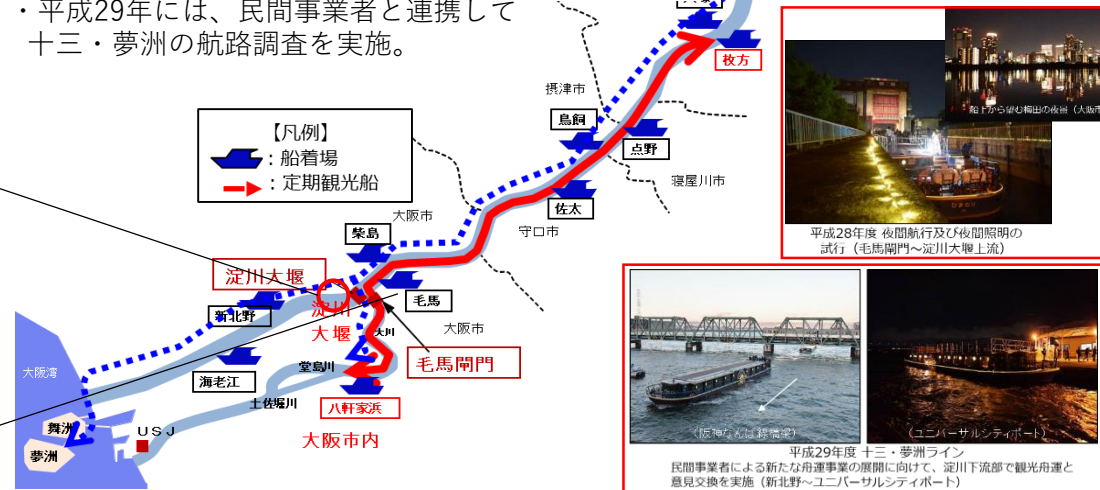
十三緊急用船着き場の整備

- ・令和2年度より、十三地区の防災船着き場の整備に着手。
- ・設置後は、他の船着き場同様の防災機能に加え、当該船着き場を拠点とした周辺整備・地域活性化を期待



淀川沿川の緊急用船着き場と航路

- ・阪神淡路大震災を契機に、河川管理施設の早期復旧や陸上交通網の代替輸送経路機能を担う施設として、淀川では緊急用船着き場（9箇所）及び緊急用河川敷道路（整備済み約65km）をこれまでに整備。
- ・民間舟運事業の収益化や観光ニーズの把握などを目的に、社会実験を継続して実施。
- ・平成29年には、民間事業者と連携して十三・夢洲の航路調査を実施。



淀川大堰閘門の整備

- ・現在、淀川の上下流の航行を分断している淀川大堰の左岸側に閘門を整備するもの。
- ・令和3年度に事業化、2025年大阪・関西万博での活用を目指し整備中。
- ・淀川舟運の平常時・災害時利用に資する施設として期待。



淀川の自然環境の保全

- ・都市に残された貴重な自然環境を保全し、人々が自然と触れ合う場を創出。



淀川河川敷十三エリアの魅力向上に向けた マーケットサウンディング（市場調査）

概要案

調査の概要

【背景と主旨】

- 淀川河川敷十三エリアは、阪急京都線・宝塚線・神戸線の3線が交差し、多くの乗降客が利用する阪急十三駅からほど近く、連日、ジョギングや散歩を楽しむ市民が集い、春には土手一面に菜の花が咲き、夏には花火があがるという、都会の中のオアシスといった風情を醸し出しています。
現在、この近くに位置する「もと淀川区役所跡地」では、図書館を核とした、専門学校、住宅、スーパーマーケットを含む新たな目玉スポットとなりうる複合施設の整備が進められています。
- 淀川河川敷十三エリアのさらなる魅力向上の取り組みとして、公共・民間・地域の力を合わせて地域に愛される交流空間をつくり、十三のまちのイメージの変化を住民が喜び、一緒に育てていくことで、十三の一体的な魅力向上、淀川区全体のブランド力向上につなげていきます。
- また、令和2年3月リリースの、新大阪駅周辺地域の20年から30年先を見据えた新しいまちづくりのコンセプトとなる「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域 まちづくり方針の骨格」の中では、「水都大阪らしい淀川を活用した舟運・レジャー施設」の導入が期待されているところです。
- 2025年に開催される万博をも視野に入れつつ、民間事業者の意見を聞きながら、この河川空間をこれまで以上に活用することにより、淀川河川敷十三エリアの魅力向上のための都市空間を創造していきます。

調査の概要

【目的】

阪急十三駅から約600m徒歩7分という立地条件を活かし、人々の注目を集め、人々が集い、にぎわいのある空間として活用することができないか、淀川河川敷十三エリアにおいてどのような事業が展開できるのか、事業の実現性、整備条件、事業者応募の要件についての意向等を把握することを目的としています。

【調査対象エリア】

○概ねの調査対象エリア

十三船着き場及び芝生化されたエリアを中心とした河川の区域内

○行き方

阪急電車「十三」駅
徒歩7分
大阪シティバス
「淀川区役所前」
下車徒歩5分



調査の概要

活用コンセプト

「子どもから大人まで多様なひとが自然に集い、交流の輪が広がり、人が繋がる河川敷」

- ・にぎわい（食事・交流）
- ・読書
- ・健康・スポーツ
- ・景観
- ・親水空間

- 河川敷の機能アップ
- 十三エリアのブランド向上
- にぎわいづくりや交流促進につながる空間と建物の整備
- 干潟等の自然環境との共存

沿川住民の日常的な利用

現状の魅力



協議会により生み出していく新たな魅力



多様なサービスの提供



楽しみのある空間



水辺のうるおいと交流



多くの人がかつろげる空間



自然との共存



夜景を生かす空間づくり